



志楽小学校だより

舞鶴市立志楽小学校
平成29年度学校だより
第13号
平成30年3月1日発行



ありがとう
ございました！



感謝の気持ちを言葉に表すとともに
気を引き締めて、まとめの時期を！！



6年生を送る会
ありがとう集会

2月は、厳しい寒さの日が続きました。子どもたちは、雪遊びや、つらら張った氷など、冬の風物詩に触れることができ、存分に冬を楽しみました。一方で、地域の皆様、保護者の皆様には、通学路の雪かきを大変お世話になり、ありがとうございました。感謝申し上げます。

25日(日)に開催しました「6年生を送る会」には、多くの保護者様やご家族、地域の皆様にお越しいただきました。子どもたちは、6年生へ「ありがとう」の気持ちを込めて、一生懸命な姿で臨みました。練習風景を見ていて感心させられたのは、どの子も真剣に取り組み、皆で心を合わせて練習に励む姿でした。6年生への感謝の気持ちを伝えたいというのは勿論のこと、学年のまとめとしての練習を通して、心を合わせるとともに、個々のよさを発揮し、その力が磨かれたと感じました。

3月は、さらに「各学年で付けるべき力」を付けるよう、こつこつと粘り強くがんばり、「成長したな」という達成感を味わわせられるよう取り組んでいきます。同時に、気を引き締めて、命を大事にして、まとめの時期を充実させたいです。6年生が見せてくれた「挑戦する姿、あきらめない姿、自分のよさや個性を伸ばす姿」そして、全校皆の「ありがとう。」と感謝の気持ちを素直に言葉に表す姿」を大切に、自分の思い描く夢へ向かって、次年度への準備をしていきます。

夢といえば、連日「平昌オリンピック」で健闘する日本選手の姿が報道されました。「チーム力や仲が良いこと」、「人間の無限の可能性」を数多く実感されました。夢に向かって、自分を鍛え、人のことも思いやりながら活躍される姿に大きな力を与えていただきました。「できないことなど何もない」。子どもたちの夢は変わっていくかもしれませんが、「なりたい自分」を思い描き、「あきらめない」で自分の可能性を拓いていってくれるよう応援したいです。

今後も、子どもの学ぶ力と可能性を切り拓く力を高められるよう、また引き続き、インフルエンザや胃腸炎などの感染予防、事故防止に努められるよう、ご家庭におかれましても引き続きご支援をお願いいたします。

校長 村川 広美
教職員 一同



日々に新たに・・・ 見える心遣いに、ほっと和む

三年生の児童が、調べ学習をしに校長室へ来ました。私は、途中で用のため席を空けてしまい、そのまま、その校時が終了してしまいました。本来なら、私にお礼を言ってお礼を後にしたかったでしょう。会議机の上に、貸し出された本をきれいに重ねて、小さなメモが置かれていました。「しつれいしました。帰ります。〇〇より」ただこれだけのことですが、三年生の大人な対応にほっと心が和みました。

夢を志に、自分の可能性を拓いて

志楽小学校の「6年生を送る会」での6年生の入場は、運動会の親子リレーに続いて、一人一人に光があたり、素敵な場面になっています。「みんなが頑張って、みんながいい」。在校生は、あんな6年生になりたいと自分の目指す姿を思い描いたことでしょうか。多くを語らなかつた子もいますが、一人一人の学校での活躍は、「あなたがいてくれてよかった」と、語りつくせないくらいで、皆分かっていきます。見えるよさも見えにくいよさも一番ご存知なのは、ご家族でしょう。本当に大きく頼もしく成長された胸が熱くなりました。また、職員発表の時、職員だけに見えたのは、思いがこみ上げてきた表情の6年生の姿でした。一年生から五年生が語った感謝の言葉には、日々の関わりや目標とする6年生の姿が映し出され、思わず涙があふれそうになりました。この一年間、志楽小学校のみんなのがんばりをありがとうございました。また、ご参観いただきました皆様も静かに聞き入って応援していただき嬉しかったことに感謝申し上げます。

後伸びする力の一つ「生きる世界を探索する目」

この冬は、豪雪や寒気のため、被害の出た地域がありました。ことのほか寒さの厳しい日、小さな子どもたちの関心事はつららや水たまりに氷が張ることです。特に二年生の一部の子たちは、毎朝、氷の厚さを観察するのが日課でした。そんな自然現象に関心を持ち、探求する姿が素敵でした。

「防災とは、『ただいま』をいうこと」

白糸中学校区PTA三校合同人権講演会は、「小さな命の意味を考える」3・11の記憶を語り継ぐ」と題して、震災で、お子様(石巻市立大川小学校6年生)を亡くされた佐藤敏郎様にお話をいただきました。間もなく、東日本大震災の発生から7年を迎えます。一日も早い復興とお亡くなりになられた方々のご冥福を祈るばかりです。阪神大震災もそうですが、失われた命の重みがずっしりと心に響きます。地震は避けられなくても、災害は避けられるよう、語り継がれることを自分事として捉え、備えをしつかりとすることの重要性を深く心に刻む機会となりました。佐藤様が語られた「防災とは、突き詰めれば『ただいま』を言うことだと思えます。『は重い。』ただいま」と帰った子どもをぎゅうつと抱きしめられる幸せの尊さを忘れてはなりません。